

# 静岡勝ち、Vへ望み



## 山ノ井、PK戦好セーブ

SBSCUP国際ユースサッカー(日本サッカー協会、県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催、エコパハウス共催)第2日は12日、愛鷹広域公園多目的競技場で2試合を行った。静岡ユースはU-19日本代表と対戦し、1-1(PK4-2)で制した。U-19スロバキアは2-0でU-19コスタリカを下し首位に立った。勝ち点らのスロバキアを、同3とともに2位の静岡とコスタリカが追う。日本は勝ち点1で優勝の可能性が消えた。最終日は14日、エコパスタジアムで日本vsスロバキア、静岡vsコスタリカを行う。

きのこの結果  
静岡ユース 1-1(10-1) U-19日本代表  
PK戦の末、U-19日本代表を下した。  
静岡は前線からの積極的な守備でリズムを  
静的な守備でリズムを  
静的な守備でリズムを

靴のひもを緩めてベンチで試合を見ていた時に突然、出番を告げられた。静岡ユースのGK山ノ井が後半終了間際にPK戦要員としてピッチに登場。日本代表の1人目のキックを止めて、チームを勝利に導いた。

前日のスロバキアとのPK戦は一本も止められず、悔しさをあらわにしていた山ノ井。廿日岩監督から借りて返す舞台を与えられた。日本の1人目はJ2京都内定の岩崎。山ノ井は左に飛んで両手でボールをたたき落とすと、2人目のキックは直接バーに当たって静岡が断然、優位になった。

相手の日本代表GK広末とは昨年、大分で行われたGKキャンプで一緒だった。日本代表に招集された広末にライバル意識を燃やしていた山ノ井は「PKは負けるわけにはいかない」としっかりとアピールに成功した上、2日連続のPK

## 日本、終盤追い付く



静岡ユースU-19日本代表 PK戦で日本の1人目のキックを阻む静岡のGK山ノ井。愛鷹広域公園多目的競技場

K戦を経験し、「外国人のキックは本当に読みにくかった」と改めて学んだ。

廿日岩監督は「80分で勝負を決めたかった」と終盤の失点を反省するが、前日のプレースタイルとは異なり、積極的な攻守の姿勢を評価した。優勝の可能性も残った。先制点を挙げた遠野は「最終戦も自分がゴールを決めて優勝する」と力強かった。

(秋原正司)

# スロバキア快勝

【評】スロバキアが前半の2得点を守り切り、コスタリカに快勝した。スロバキアは前半2分、右クロスをクレラ

【評】スロバキアが前半の2得点を守り切り、コスタリカに快勝した。スロバキアは前半2分、右クロスをクレラ

U-19 スロバキア	2	0	0
U-19 コスタリカ	0	0	0
PK戦	4	2	

コスタリカは積極的なサイド攻撃を仕掛けたが、10本のシュートを放ったがゴールを割れなかった。後半に1人退場者を出したのも響いた。



U-19スロバキア代表U-19コスタリカ代表 前半13分、2点目を決め抱き合っているスロバキアの選手たち。愛鷹広域公園多目的競技場

スロバキア	4	3	3
コスタリカ	0	0	0
PK戦	2	0	

## 吉平が同点弾

### 主将の意地、攻撃活性化

終了間際に日本の吉平主将が意地を見せた。ピッチに登場して2分後の後半39分。相

手DFがゴールライン上で阻止したこぼれ球に素早く反応し、貴重な同点弾を決めた。日本の丸を背負う誇りを胸に戦った。「負けない相手だった。まずは同点。逆転も可能だと思っていた」。交代直後から前線で積極的な動きだし、停滞していた攻撃を活性化。ストライカーとして仕事を果たした。日本は序盤から積極性を欠き、劣勢を強いられ、原因は前線の動きだしの不足。内山監督は「足元へのパスが多く、テンポが変わらなかつた」と嘆く。土壇場で代表経験が豊富な最年長の吉平を投入し、選手交代で変化を起した。吉平はベンチで「思い切りプレーでいい」と仲間のプレーにもどこかしきを感じていた。PK戦での敗戦は、80分間の消極的な姿勢が結びつたのかもしれない。2連敗で優勝はなくなったが、未勝利のままでは終われない。「最後まで勝つて、自分たちの価値を高めよう」と伝えていきたいと吉平。